

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4078700210
法人名	社会福祉法人 朋寿会
事業所名	グループホーム 夢想園 (ユニット名 1 )
所在地	福岡県みやま市瀬高町松田 481
自己評価作成日	平成23年7月10日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のんびりした田園地帯にあり、特別養護老人ホームの敷地内と併設しており、デイサービスに行ったりホームの慰問に参加したり近隣の方からお花を差し入れて頂いたり道路を散歩する方と挨拶したりして地域と密着した運営を目指している

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

広々とした田園地帯に位置し、田圃には稲がたわわに実り、鳥たちが優雅に飛び交うような自然に囲まれた環境にある。ホームは法人の特別養護老人ホームやデイサービスと同じ敷地内にあり、交流を行っている。1ユニットという特性から大家族が助け合いながら、穏やかに暮らしている雰囲気である。法人の施設長・本部長またホームの管理者・職員全員が利用者に穏やかに語りかけ、温かな雰囲気がある。管理者、職員は常に一人ひとりの利用者に対し、心を傾け、どのようなケアを行っていくのがよいか検討し、質の向上に努めている。地域密着型の事業所として今後も大切な役割を果たしていくことを期待したい。

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成23年9月3日

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・高齢者と自立と尊厳を支え福祉を通じて地域社会に貢献する 地域社会の一員として・優しい介護を提供し 生活の質の向上に貢献する ・(心地良い生活の継続) 明るい笑顔 感謝の気持ち ユーモア ゆっくり話を聞く 丁寧な言葉	敷地内に法人が経営する特別養護老人ホーム・デイサービス等があり、法人の理念を基に、グループホームにあった理念を職員皆で作っている。理念については朝礼で唱和したり、カードにして名札の中を入れたり、目につくところに貼る等して共有し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・近所が少ないが近所の方がお花などを 持って訪問される ・畑に行かれる方に挨拶をしたりして コミュニケーションを図っている	田園地帯に位置し、ホーム周辺は民家が少ないが、近所の方が季節の花を届けてくれたり、自治会にも加入しており、公民館や図書館での催し物に参加して交流している。小中学生の体験学習や、婦人会のボランティア等を受け入れ、社会福祉協議会との協力関係を通じ地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・運営推進会やデイサービスとの交流でも理解や支援をしてもらうように努めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・行事の報告、現状報告をしたり色々なアドバイスを頂き職員会議等で話しあっている	2ヶ月に1度、家族代表・婦人会会長・老人会会長・ホームの職員代表で運営推進会議を開催している。行事や利用者状況報告、感染症対策等の伝達研修、市役所からの情報提供、介護に対する悩みへのアドバイスをを行っている。ホームからは、災害時の避難誘導の協力依頼を行う等、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・不穏な点や困った時に連絡し指導を受けている ・運営推進会議にも参加していただき コミュニケーションを取るよう心掛けている	困りごとがあった時は、介護保険課に出向いたり、電話をしたりして相談し、指導を仰いでいる。以前、スプリンクラーの設置を行うにあたり相談したことがある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束について勉強会等をしたり玄関にもチャイムをつけ開放している	勉強会をしており、禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。転倒や転落の可能性がある利用者については、職員で話し合い、ペット柵に鈴をつけたり、玄関にチャイムをつけること等で、身体拘束をしないケアに努めている。また言葉による制止等も職員間で協力しあいながら気をつけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・勉強会をして理解をし注意を払い防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・職員会議で成年後見制度について勉強会をし、必要とされる方が現れた時はパンフレット等準備をしている	職員会議で勉強会を行い、パンフレットを置いている。必要な時は情報提供を行うことが出来る。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約時に十分な説明を行い理解を得て、いつでも相談を受け納得していただくように心掛けている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・意見箱を玄関に設置したり面会時にコミュニケーションを多く取るようにして運営に反映させるように努めている	常々話しやすい雰囲気づくりを心がけており、家族の訪問時や電話で、意見や要望を聞き取っている。家族より「病院受診のサポートをして欲しい」と言われ、できる範囲で行っている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎朝のミーティングや月1回の会議で意見交換を行ない改善に努めている	職員会議で意見交換を行っている。利用者のケアの内容については沢山意見が出るが、現在のところ運営に関しての意見は出てこない。意見を言いやすい雰囲気になり、必要時には意見を言うことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・一人一人に役割を分担し、向上心を持って働けるよう努めている。年2回目標シートを作成し達成するよう努めている。それは給与や賞与に反映している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	・年齢、性別は不問である能力向上の為勉強会を行っている。経営母体である法人が採用を決めている。採用による排除項目はない、また配置希望や資格取得、勉強会への参加を促している	年齢や性別で採用対象から排除をしていない。休みの希望も聞き入れられており、職員は、音楽やお菓子作り等、自分の特技を活かしながら、生き生きと働いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	・内部研修ではあるが職員会議で勉強会をしている。法人全体で講師を招いて新人研修を行っている	法人の新人研修で人権研修を行ったり、ホームの職員会議で勉強会を行い、利用者に対する言葉遣いや、プライバシーの保護に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・法人内の研修や外部での研修に参加し職員会議などで発表している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・同業者の交流やネットワークづくりの勉強会に取り組んでいる		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・個人の部屋で話を聞き安心して生活が出来る環境を提供出来るよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・家族とのコミュニケーションを図り 面会時に相談を聞いている 又、連絡などで話を聞いている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・本人と家族が今必要としている事を聞き対応している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・家庭的な生活その人の生活リズムを把握して、今の状況にあった過ごし方を見出ししていくように協力している		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・2ヶ月に1回定期通信をし定期的に通院する場合は同行していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・デイサービス、特養での行事やお説教などに参加して、馴染みの方とのふれあいや交流を図っている	利用者が高齢化しており、馴染みの方達との交流は難しい面があるものの、敷地内にある同法人の特別養護老人ホームでの行事やデイサービスに出かけ、馴染みの方との交流を図っている。馴染みの美容室や道の駅、以前行かれていた名所にドライブに出かけている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・毎日レクリエーションやドライブなど通して楽しく過ごせる関係を保てるよう努めている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・入院された場合は定期的に家族に連絡を取り関係継続を大切にしている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・一人一人の思いや生活主観を把握して生活を送っていただけるように配慮している	入居前に家族から利用者の生活歴を聞いている。また、日常会話の中やレクリエーションでの関わりを通して、表情から思いをくみ取ったり、スキンシップを図りながら、希望や意向を把握するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入居時のアセスメントや本人とのコミュニケーションの中から経験や重要となる出来事を知る事でその方の生活文化や個人を把握しようと努力している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・一人一人の心身状態を把握し観察する事からその日の状態に合わせた統一したケアに努めている ・介護日誌や申し送りや伝達を把握している		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・日々の健康状態を観察し残存能力の活用と安心して生活を送る事が出来るような計画を家族の意向を取り入れスタッフと話し合い作成している	家族の希望を聞き、担当者が作成した原案に全職員からの意見、アドバイスを取り入れ介護計画を作成している。月1回の職員会議でモニタリング、経過報告を行い、6ヶ月に1回の担当者会議にて介護計画の見直しを行っている。状態の変化があった時は、現状に即した介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・利用者の状態を記録し気付いた変化や改善の意向など職員の意見や工夫を取り入れ実践し介護計画の見直しに努めている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・同法人のデイサービスにおいて交流を目的として参加したり特養での年中行事に参加している		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・何よりも体が思うように動けないので運営推進の方々やデイサービスの人との昔話の会話を楽しまれている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入居者全員内科医の主治医を持ち2週間隔の主治医の往診 又、主治医とコンタクトを取り異常の早期に努めている ・心身の異常時は速やかに主治医に連絡し、随時受診又は往診がスタッフ、家族より取れるようにしている	かかりつけ医の受診継続が出来るように支援しているが、内科は家族の希望があり、全員の利用者がホーム協力医を主治医としている。眼科や皮膚科等はかかりつけ医を受診している。基本的には家族の通院介助となるが、依頼があれば職員が同行し、家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・日々の観察や健康状態の変化など気付いた事を介護、看護職お互いに情報交換し異常の早期発見、状態回復に努めている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・職員が面会に訪れ、精神的苦痛の緩和に努め現病状態を把握し早期に退院できるように家族、医療機関と情報交換を行っている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・家族や本人希望に叶うようなケアを主治医と相談しながら行っている	重度化や終末期については、入居契約時より家族と話をしている。常に家族の気持ちを確認して話し合い、主治医、職員、家族と思いを共有しながらケアを行っている。医療との連携を整えチームで支援できるよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルを作成し活用している 職員研修、職員会議時に対応について学んでいる		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・火災訓練は毎年定期的に行っている マニュアルを作成している	同法人の特別養護老人ホームと合同で、夜間想定を含め年2回の防災避難訓練を実施し、心肺蘇生等の救命講習も行っている。地域の消防団や区長に災害時の協力体制を依頼している。非常時に備え食料等の備蓄をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・一人一人の人格を尊重し、プライバシーを損ねないように配慮し対応している	トイレ誘導は、その方に伝わる言葉で耳元で声かけし、リビングとトイレの間にある廊下のドアを閉め、プライバシーを損ねないように心がけている。日誌の記録は、利用者の目に触れない距離で見守りをしながら行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人の思いや希望でご家族との交流やデイサービス、近隣との交流を行っている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・まず、本人からの思い、伝えたい事を傾聴し本人のペースに合わせて支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・定期的に理容師に来園してもらっている 希望があればパーマ等も出来る 又、馴染みの美容室に家族と行かれても良い		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・本人の体調や好みに合わせ食事形態の変更を行っている	介助が必要な入居者が6名おられ、職員と一緒に食事をする事は出来ないが、優しい声かけや会話をしながら行っている。法人内の管理栄養士が献立を考えるが、調査を行い利用者の好きなメニューを盛り込んでいる。月1回の誕生会やお菓子作りを行い、別メニューで食事を楽しむことが出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・特養施設の管理栄養士に献立を作成し摂取量、水分量を記録している ・個々の利用者に合わせて、お粥、ミキサー食トロミのついたお茶を摂取している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食後利用者のレベルに合わせて口腔ケアを行っている うがいが必要な利用者にはガーゼにて口腔内を洗浄している		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・立ち上がり不安定な利用者には、2名介助にて行う等できる限りトイレでの排泄の自立へ向けた支援を行っている	排泄チェック表にて一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が出来るように自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎日軽体操を行い、水分 食事 排尿 排便のチェックを行い記録している ・利用者に応じて腹部マッサージを行ったり主治医へ報告し緩下剤を処方にて排便コントロールを行っている		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・一日おき、週3回入浴だが個々の利用者に合わせて、その日の状況、状態にて無理なく楽しめるように個々に沿った支援を行っている	基本的には1日おきに午後からの入浴となっているが、利用者の希望や状態に合わせて入浴できるように個々にそった支援を行っている。拒否のある利用者には強要することなく、声かけを工夫し出来るだけ入ってもらうように努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個別的に休息される方は居室にて休んでいただいている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・主治医の指示にて服薬の支援をしている 服薬の目的、副作用、用法、用量は明記しておりいつでも閲覧できるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・おしぼり巻き洗濯物たたみ等手伝っていた ・併設する施設との交流 散歩 ドライブ等行っている		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・季節に応じ 花見 紅葉 イルミネーションなどの見学ドライブを行っている ・施設周近は田んぼなどがあり外を散歩する事で季節を感じていただき道行く人とのコミュニケーションも行っている	近隣の清水山に紫陽花を見に行ったり、道の駅にお饅頭を買いに行ったり、農道を散歩したりと、気候や入居者の体調に合わせての外出支援を行っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・大部分は家族と相談し職員が管理しているがショッピングなどを企画し希望に応じて支援している		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話希望時はすぐに対応している ・手紙はがき等も送付時は代筆し共に喜び合って支援している		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・玄関 ロビー 洗面所などに季節の花を飾り季節感を演出している ・外庭 中庭にも季節の花々を育てている	ホームの真ん中に中庭があり、全面ガラス張りになっているため、自然で心地よい光がさしている。リビングには2人掛け、3人掛けのソファが置かれ、思い思いにくつろいだり、テレビを見たりして、居心地良く過ごせるようになっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングにはソファ 長椅子があり、中庭にもテーブルがあり入所者が好きな場所で過して頂けるよう工夫をしている		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅にて需要されておられた家具や人形を持参して頂き居心地の良い工夫をしている	本人が居心地良く過ごせるように、家族の写真や飾り、仏壇を置いたり、使い慣れた椅子を持ち込んだりと、その人らしい居室の配慮がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・廊下 トイレには手すりを玄関 中庭にはスロープを設置している ・全室バリアフリーになっている 入口にはマスコット等つけている		